

小学部 第6学年 社会科「江戸幕府と政治の安定」学習指導案

単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武士による政治が安定したことについて理解するとともに、絵画資料や文化財、地図帳や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。【知識・技能】 ・ 江戸幕府の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。【思考力・判断力・表現力】 ・ 江戸幕府の政治について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。【主体的に学習に取り組む態度】
○日本語支援 ●多文化共生の視点	○資料の読み取り、解釈、説明、論述などの言語活動を取り入れることで、児童の思考力・判断力・表現力を育ていけるようにする。 ○日本語教室で先行学習を行い、学習用語を事前に説明したり、児童同士の交流活動の中で、意味の分からない言葉や難しい言葉を説明しあえるようにする。 ●本単元では、多文化社会の中で生きる力として、主に、創造力・批判的思考力の育成を目指して行う。そのために、時代背景を根拠にして自分なりの予想を立て、歴史的事実を調べていく過程を通して、徳川家康・秀忠・家光の考え方を学びながら、自分の考えを更新していくことができるようにする。

単元の指導と評価の計画

時間	学習活動	評価規準
1	学習問題を作る。 「江戸時代が 260 年も続いたのはどうしてだろう。」	江戸幕府が成立するまでの時代背景や徳川家康が行ったことについて理解している。【知・技】 疑問を積極的に発言している。【態】
2・3	大名に対する支配について調べる。 武家諸法度、大名配置、参勤交代	大名に対する支配の様子から、家康や秀忠・家光が目指したことを考察している。【思・判・表】
4	人々に対する支配について調べる。 身分	人々に対する支配の様子から、家康や秀忠・家光が目指したことを考察している。【思・判・表】
5	外国とのかかわりについて調べる。 キリスト教の禁止、鎖国、貿易	外国とのかかわりの様子から、主に家光が目指したことを考察している。【思・判・表】
6	鎌倉幕府・室町幕府との政治の仕組みの違いについて調べる。	それぞれの幕府の仕組みから、江戸幕府が安定して長く続いた理由を考察している。【思・判・表】
7 (本時)	学習問題についてまとめる。	大名や人々に対する支配や外国とのかかわりの様子を関連させて考察し、表現している。【思・判・表】

本時の学習

(1) ねらい

江戸幕府のどんな政策が最も効果的だったか考えることを通して、江戸幕府が行った政策の共通点は武力と財力をつけさせないことであると気付くことができる。

(2) 準備物 iPad (ロイロノート)

(3) 授業の流れ

	活動内容 発問・説明	教師の支援 (☆多文化共生の視点)	資料の活用	評価規準
導入	1. 本時のめあてを確認する。 5分	・ 落首に軽く触れ、終末のまとめに生かせるようにする。	落首	本時のめあてに対して意欲

	260 年続いた江戸幕府の政策について、優先順位を示して考えをまとめよう。	「織田がつき羽柴がこねし天下餅 〇〇〇〇徳川」		的に取り組もうとしている。【態度】
展開	<p>2. 江戸幕府のどんな政策が効果的だったのか、自分の考えを書く。 ・大名支配、人々の支配、海外とのかかわり、幕府の仕組みについて、どんな政策を行ったか確認する。 6分</p> <p>・理由を考えながら順位付けをする。 13分</p> <p>3. 発表する。 7分</p> <p>4. 考えを交流する。 7分</p>	<p>・自分のロイロノートをふり返る時間をとり、それぞれ発表することで、前時までの学習を想起できるようにする。</p> <p>☆順位付けが難しいと感じる児童には、まずは二つずつ順位付けするように声を掛ける。(日本語支援)</p> <p>☆早くできた児童には、易しい日本語での説明の仕方を考えるように声がけをする。(日本語支援)</p> <p>・根拠を示して説明できるように声を掛ける。</p> <p>☆自分と同じ考えや違う考えに注目できるよう、内容を整理しながら板書する。その際、政策の共通点に目が向くように板書する。(批判的思考力)</p>	<p>前時までのまとめ 教科書 資料集</p> <p>板書</p>	<p>今までの学習から多角的に考え、江戸幕府が 260 年続いた理由を考えている。 【思判表】</p> <p>政策の共通点である大名・人々・外国に対して武力と財力をつけさせない工夫に気づいている。【知技】</p>
終末	5. 本時のまとめとして、落首にふさわしい文を考える。7分 「織田がつき羽柴がこねし天下餅 〇〇〇〇〇〇〇徳川」	<p>・「大名支配し食べるは徳川」 「外国封鎖安心して食べるは徳川」 「身分と年貢の上で食べるは徳川」 など、徳川幕府の政策を落首にできるように声がけをする。</p>		<p>本時順位付けした項目を中心に表現している。 【思判表】</p>

考察


(成果)

知識の伝達だけでなく、毎時間学んだことを積み重ねながら、自分の考えを更新していける授業（批判的思考力を育てる授業）にしたいと願い、本時は単元をつらぬく学習問題である「江戸幕府が264年続いた原因」について、自分の考えを発表する時間を設定した。単元展開から大名支配、人々の支配、外国とのかかわり、政治のしくみといった角度から考えられることを想定し、順位付けの活動を行った。児童全員が前時までに学んだことを生かして、根拠を示して説明していたことは学びの積み重ねの成果だった。単元のはじめで「鎌倉幕府や室町幕府との違いは何か」を追究したいと願っていた児童は、友達の考えを聞き、鎌倉幕府や室町幕府と比較して、反乱を起こさせないようにしたことが徳川幕府が長く続いた原因だと、自分の考えの根拠をより明らかにすることができた。本単元を通して目指していた批判的思考力を深められた一場面であったと思う。

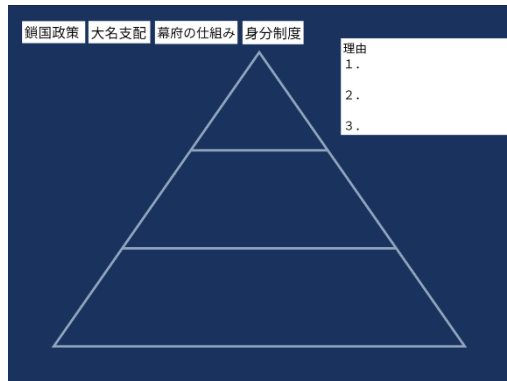
(課題)

本時では、児童の考えを交流させることができなかった。順位の違いについてそれぞれの考えを交流させることが批判的思考力を育成するのに大切な活動の一つであった。この場面で友達と比較することで、順位付けの根拠をより明確にし、自分の考えをより深めたり、違いに気付いたりすることができたと考えた。小人数ということが児童同士の人間関係を固定化させてしまい、話し合いに幅が生まれづらいことが、学級経営上の課題である。そこを打破するためにも、教師が予想される順位付けを想定し、それぞれの理由から考えを交流できるように準備しておく必要があった。今後工夫していきたい。

織田がつき、羽柴がこねし天下餅(もち)
すわりしままに食うは 徳川




すわりしままに食うは徳川
…徳川は何もしなかったのかな？



織田がつき、羽柴がこねし天下餅(もち)

徳川



単元の最初

本時で使うシンキングツール

自分なりの根拠を持って表現する